

令和5年度事業報告書

I 基本方針への対応

基本方針である、森林の中で自然との共生を学び、体験し、様々な形で森林とふれあうライフ・スタイルを創出するフォレスト・エコ・ライフの推進、実践を図り「自然との共生」の普及に寄与するため、公の施設の指定管理者として管理している「ふくしま県民の森」において、各種事業を展開した。

また、令和5年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の徹底や大型野生動物の侵入対策強化を図り、利用者の安全・安心を確保し、利用満足度の向上と質の高いサービスの提供を念頭に運営した。

II 令和5年度 財団中長期計画（平成25年度～令和5年度）の推進状況

(1) 森林学習施設区域利用者数等

新型コロナウイルス感染症が5類となり様々な活動の制限が緩和され、前年度に比べると利用は若干上回った。しかしインフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症が周期的に流行したため、学校利用や団体利用についてはコロナ禍前には戻らず、森林学習施設区域における利用者数は目標を達成できなかった。

ア 森林学習施設区域利用者数

(単位：人)

年 度	区 分	目標値	実 績	達成率（実績／目標値）
平成25年度	計画始期		12,303	
令和元年度	コロナ前	13,300	14,109	106%
令和4年度	前年度	14,700	8,844	60%
令和5年度	当年度	15,200	9,687	63%

イ 森林館の入館者数

(単位：人)

年 度	区 分	目標値	実 績	達成率（実績／目標値）
平成25年度	計画始期		3,313	
令和元年度	コロナ前	3,300	3,343	101%
令和4年度	前年度	4,500	2,173	48%
令和5年度	当年度	5,000	2,764	55%

ウ 学校・団体利用者数

(単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 25 年度	計画始期		5,108	
令和元年度	コロナ前	5,230	4,317	83%
令和 4 年度	前 年 度	6,040	3,302	55%
令和 5 年度	当 年 度	6,340	3,445	54%

(2) オートキャンプ場区域の利用者数等

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類になったものの、インフルエンザも含め感染症が周期的にまん延し、直前キャンセルなど、利用に関しては引き続き影響があった。また、コロナ禍で抑制されていたレジャーが促進され、オートキャンプ以外へ関心が向いたことも原因となり、前年度との比較では微増に留まった。しかしグループ利用は戻ってきており、利用者数は目標を達成した。

また、日帰り温泉の利用者数は、サウナの流行もあり平日でも利用が多く、目標を達成した。

ア オートキャンプ場利用者数 (料金対象外の幼児を除く)

(単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 25 年度	計画始期		25,709	
令和元年度	コロナ前	31,500	40,292	128%
令和 4 年度	前 年 度	33,000	36,572	111%
令和 5 年度	当 年 度	33,500	36,739	109%

イ 日帰り温泉利用者数

(単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 25 年度	計画始期		13,598	
令和元年度	コロナ前	14,200	14,338	101%
令和 4 年度	前 年 度	14,800	13,346	90%
令和 5 年度	当 年 度	15,000	15,412	102%

Ⅲ 指定管理者としての「ふくしま県民の森」の管理運営状況

「ふくしま県民の森」として、施設が設置目的に沿って利用され、公平で質の高いサービスが提供できるよう、「ふくしま県民の森の管理に関する基本協定」や関係法令等を遵守するとともに、諸規程に基づき適切な運用に努めた。

また、利用者が安心して快適に利用できるよう、環境整備や施設の維持管理を行うとともに、災害等の危機管理の徹底を図った。

さらに、感染症対策の徹底を図りながら、企画・運営能力を発揮し利用者が森林に親しみながら楽しめる事業を展開するとともに、可能な限り利用者の期待に応えられるよう丁寧な対応を行ったほか、事業収入の確保と、効率的な業務執行、電気料金など経費の削減に努めた。

1 オートキャンプ場管理運営事業（公益事業）

事業収入の大きな部分を占めるオートキャンプ場利用収入は、過去最高の収入額となった昨年度を上回った。これは、サイト料金の値上げ（9月改定）による増収であり、利用者数は微増である。雪中キャンプ期の積雪が少なく3月に春雪が降ったため、1～3月の利用は例年より減少した。

また、利用形態が家族利用から大人のソロ・デュオ利用に変化しており、利用人数は大人が増加、小人は減少した。

オートキャンプ場利用収入

（単位：千円）

年 度	区 分	収入金額		備 考
令和元年度	コロナ前	101,925		利用者数 40,292 人
令和4年度	前年度	105,091		利用者数 36,572 人
令和5年度	当年度	107,882	前年比 103%	利用者数 36,739 人 前年比 100%

2 県民の森管理受託事業（公益事業）による施設の管理・運営

森林学習施設区域（52.1ha）とオートキャンプ場区域（39.4ha）合計91.5haの「ふくしま県民の森」の施設と緑地について、季節ごとの状況に応じて管理・運営を行った。

（1）施設管理

① 森林学習施設区域

森林館、森林学習館、水道施設、温泉施設、駐車場等を計画的に管理した。

② オートキャンプ場区域

ビジターセンター、サテライトハウス、コテージ、トレーラー等を計画的に管理した。

(2) 緑地管理

① 森林学習施設区域

芝生管理や県道沿いの除草、森林の下刈り、枯損木の除去等を計画的に実施した。

② オートキャンプ場区域

道路法面の下刈り、テントサイト周辺の危険木の除去、樹木整理等を計画的に実施した。

3 施設の高規格化、老朽化対策

利用者の満足度の向上、施設の老朽化への対応及び施設管理の効率化を図るため、福島県から交付されている「県民の森管理受託収入」と利用収入から得られた財団の財源（オートキャンプ場利用収入）を用いて、施設の修繕や備品の更新などを実施した。

(1) 福島県の財源による対応（県民の森管理受託収入ほか）

・ビジターセンター

灯油ボイラー漏水修繕、チップボイラーポンプ異常調査・修繕、サウナタイマー更新

・コテージ

アリ駆除

・テントサイト等

サテライトハウス漏水修繕・給湯機修繕・混合栓修繕、排水管高圧洗浄、野外テーブル・イス修繕、ホイルローダー修繕、乗用芝刈り機修繕

・森林学習施設区域

森林館ロールスクリーン修繕、危険木伐採

(2) 財団の財源（オートキャンプ場利用収入（公益事業））による対応

・ビジターセンター

排煙窓修理（浴室、ショップ）、トイレ便器交換、ボイラー配管漏水修繕、温泉循環ろ過機修繕、自動釣銭機導入、予約管理システム更新

・コテージ

分電盤修理、テーブル修繕、浴室シャワー栓更新、テラス修繕

・常設トレーラー

エアコン修繕、エアコンカバー新設

・その他

施設管理用車両修繕、灰捨て用焼却炉更新

4 利用者の安全確保対策

- ・強風、豪雨等の自然災害による被害発生防止対策（巡視、誘導等）
- ・大型野生動物（ツキノワグマ、イノシシ）対策のための巡回強化、監視カメラによる観察、森林下層木の伐採、電気柵の管理
- ・スズメバチの巣の駆除やアリ駆除等虫対策
- ・定期消防訓練の実施

5 令和6年度からの指定管理者の指定

令和6年度からのふくしま県民の森の指定管理者に引き続き指定されるよう、令和5年8月30日に福島県へ指定申請を行い、令和5年12月26日に指定を受けた。

- ・指定の期間 令和6年4月1日から令和11年3月31日まで

IV 「県民の森管理受託事業」以外の受託事業（公益事業）

財団の基本理念に沿った事業を、計画通り受託し実施した。

1 福島県農林水産部委託事業

(1) 森林づくり指導者養成事業

福島県が認定するもりの案内人を養成するための講座及び森林整備ボランティアの核となるグリーンフォレスターを養成する講座を運営したほか、財団スタッフが3科目の講師を務めた。

- ・もりの案内人養成講座の運営(受講者数25人)
- ・グリーンフォレスター養成講座の運営(受講者3人)

(2) 森林ボランティアサポート事業

教育機関や子ども会などの団体から依頼を受け、NPO法人福島県もりの案内人の会などへの講師派遣要請、また森林ボランティア活動の情報収集や森林整備用道具の貸出を行った。

- ・森林づくり指導者の派遣
- ・情報誌の発行(1回) 動画作成(1回)
- ・情報発信
- ・森林整備道具貸出
- ・スキルアップサポート、森林ボランティア育成研修

(3) 森林文化公開体験事業

森林文化の現況を把握し未来へ継承するため、「森林文化記録映像」を制作したほか、県内の森林文化を学び体験する出前講座、体験講座を実施した。

- ・森林文化記録映像(伊達組子細工及びクロモジ楊枝)

- ・体験講座 5 回
- ・出前講座 5 回

2 福島県こども未来局委託事業

(1) 自然あそび事業

子どもの心身の健やかな発育を促す外遊びや自然とのふれあい体験の重要性を踏まえ、主に未就学児を対象とした季節ごとのプログラムを30回実施した。

(2) 子どもと青年の異世代交流事業

保育など教育分野に関心のある学生に、外遊びの親子イベントを企画、運営してもらう活動研修を実施した。

- ・6回（うち親子イベント1回）

V 自主事業の実施

1 オートキャンプ場関連事業

(1) ショップ（物品販売）・カフェ・物品貸付事業（収益事業）

キャンプ場利用者の利便性向上のため、ショップでの物品販売、カフェの運営、レンタル品貸付の事業を実施した。カフェの席数はコロナ禍前に戻し、レンタル事業についても全商品のレンタルを再開したことから増収となった。しかしコロナ前の令和元年度売上には届かなかった。

物品販売・貸付・カフェ事業収入

（単位：千円）

年 度	区 分	ショップ売上 (物品販売)	カフェ売上	物 品 貸 付
令和元年度	コロナ前	14,436	3,160	3,618
令和4年度	前年度	13,528	2,748	1,393
令和5年度	当年度	14,170	3,326	1,671

(2) F E L制度事業（公益事業）

F E Lメンバーズは、先行予約やキャンセル待ちといった予約に関する特典のほか、宿泊ポイントにより利用料金が割引される特典がある。最近では直前予約が多いため、先行予約やキャンセル待ちを目的とした入会が減り、登録者数は減少した。

新規登録及び更新の人数

(単位：人)

年 度	区 分	登 録 者 数	前年からの増減率
令和元年度	コロナ前	1,529	
令和4年度	前年度	1,187	
令和5年度	当年度	1,057	-11%

(3) 新たな予約・顧客管理システムの導入

顧客管理システムのサポート期限終了を機に、新たな顧客管理システムを、オンライン予約システムと一体に導入した。

- ・サーバーワークス機器 コンピュータシステム、ネットワークシステム、端末など
- ・宿泊管理システム 旅館業総合事務管理システム「フロニック」
- ・予約管理システム インターネット予約管理システム「予約番」
宿泊管理システムと予約サイトを連携するオンラインシステム「ねっぱん」

2 ビジターセンターにおけるサービスの提供

(1) 日帰り温泉の提供（収益事業）

日帰り温泉は、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、令和2年度に大きく減少したものの、社会的な落ち着きとともに回復し、今年度でコロナ禍前の利用者数を大きく上回った。回数券の売上が増えており、泉質や低温サウナの良さが周知されてきている。

日帰り温泉利用者数（再掲）

(単位：人)

年 度	区 分	実 績	前年からの増減率
令和元年度	コロナ前	14,338	
令和4年度	前年度	13,346	
令和5年度	当年度	15,412	+15%

(2) キッズプレイス提供（ビジターセンター内）

新型コロナウイルス感染症対策のため休止していたキッズプレイスを、ライブラリー裏に移設し、提供を再開した。移設場所がロビーに面しているため、日帰り利用者も使用しやすい環境となり、家族連れに好評である。

(3) 森林との共生関連図書の自由閲覧（ビジターセンター）

自然やアウトドア関連へ関心を持つきっかけとなるよう、様々な本を集め、自由に閲覧できるようにしており、家族連れを中心に利用された。

3 環境教育事業（公益事業）

- ・ ふくしま生き物調査発表会を開催し、福島大学の学生に県内の生き物の調査結果を発表する機会を提供した。
- ・ NPO法人等の団体に活動の場を提供し、繁忙期の利用者を対象とした観察イベントやツリーイングを実施した。
- ・ 小学生等のふくしま県民の森での森林環境教育を促進するため、森林館の展示物の解説や自然体験の実践活動などを紹介した資料を、ホームページに掲載した。

4 福島県の森林再生に向けた取組

(1) 木質チップボイラーの運用

福島県が設置した木質チップボイラーの適切かつ効果的な運用を図るため、関係機関と連携して、安定的に利用できる良質な木質チップの確保に努め運用した。

(2) ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会事務局事業

林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の福島県協議会（窓口）としての業務を担い、森林整備等を実施する県内11の民間団体へ、交付金の交付事務や指導、国や県、市町村との調整を行った。

5 植樹緑化事業（公益事業）

サクラ植栽事業（平成27年度まで3年間実施）で植栽したサクラの適切な管理を行うため、施肥や病害枝の除去、除草など行うとともに、(公社)ゴルフ緑化促進会の支援を受けて桜の植え替えや土壌改良等を行った。

6 JR貨物グループの森林づくり事業（公益事業）

福島県と日本貨物鉄道株式会社と当財団で「森林づくり協定」を締結し、令和5年度から5年間にわたり森林づくり活動を行うこととしている。既存の森林との調和を図りながら、森林環境教育に役立つよう、広葉樹を生かした森林を形成していくため、1年目の対象森林の整備と植栽を行った。

7 講師等派遣事業

学校等の教育機関、団体の派遣要請により専門的知識を有する財団職員を講師として派遣し、「森林との共生」思想の普及推進につとめる。

- ・ けものネットワークふくしま交流会
- ・ もりの案内人等養成講座

8 調査・研究事業

「自然環境基礎調査事業」として、イノシシ・クマ・ニホンジカの調査などを行った。森林館にクマ・イノシシの生態についてのパネルを設置し通年で一般客向けに情報を提供した。また、野生動物と共生する森林づくりを目指し、福島大学食農学類と連携し森林整備を実施した。

人工池の森林環境教育活用を目的に、福島大学の塘教授に生き物調査を依頼し、アドバイスを元にNPO法人福島県もりの案内人の会と一緒に池の環境を整備した。

9 地域振興と社会貢献

(1) 地域振興

① 県内観光地等の振興

県内各地の観光地や近隣の観光施設などを、フロントを中心に案内や紹介を行った。

② 授産施設支援

ビジターセンター、ショップ等における県内授産施設製品の販売を行った。

③ 地場製品の販売促進

農産物や手工芸品などを中心とした地元製品の販売、地元食材等の紹介及び活用を行った。

④ 地元自治体や地域企業の活用

大玉村「ふるさと納税事業」、ふくしま田園観光圏「教育旅行誘致事業」に参加した。

⑤ 学校教育活動支援

学校等からのインターンシップ、職業体験、ボランティア活動など社会体験事業を受入れた。

(2) 社会貢献

① FEL助成金事業

「森林との共生」を基本理念として、森林を活用し、自然とふれあい楽しむ体験をとおして自然の大切さを広く県民に普及啓発する活動を行う団体に対し、助成金を交付した。(交付先：NPO法人福島県もりの案内人の会)

② 学校教育利用割引

未来を担う子どもたちが、癒し・教育・健康増進などに有効な森林の持つ効用を体験できるよう、オートキャンプ場のフィールドを利用しやすい料金で提供する財団独自の割引、「学校教育利用割引50%OFF」を実施した。